

環境問題バザールに向けて

バザールまでの学習の流れ

(1) 資料収集

環境問題は資料がなければ、関心をもつことも調べ学習を進めることも困難です。とはいえ、数日間のうちに多くの資料が集まるものではありません。そこで、約1か月間にわたり資料収集の期間を設けました。そうすることで、新聞に目を向け、インターネットで資料を検索し、必要な書籍を公立図書館などから借りてくることを意図しました。

個人差はありましたが、ほとんどの生徒が何らかの資料を集めてきました。熱心な生徒は毎日のように新聞に目を通し、必要な記事を切り抜き、ファイルしてきました。実際のところ、各新聞とも、ほとんど毎日のように環境問題に関する何かしらの記事が掲載されていました。

(2) 資料の選別

集めた資料を次のように、テーマごとに選別していきました。

- | | | |
|------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|
| ☐ 酸性雨 | ☐ 放射能汚染 | ☐ 野生動物の絶滅 |
| ☐ オゾン層破壊 | ☐ ゴミ問題 | ☐ リサイクル |
| ☐ 地球温暖化 | ☐ 大気汚染 | ☐ エコロジー |
| ☐ 森林破壊 | ☐ 砂漠化 | |
| ☐ 水質汚染 | ☐ 騒音 | |
| ☐ 土壌汚染 | ☐ 公害 | |

(3) テーマ選定

テーマごとに選別した資料をもとに、自分で調べていきたい課題を絞り込んでいきました。課題を絞り込んだ結果、使わなくなった資料は、資料が不十分な級友に分け与えたり、必要としている級友に譲ったりして、有効に活用するようにしました。

(4) 資料の読み取り

まずは手元にある資料をじっくりと読み進めました。その際、生徒にとっては難解な専門用語が出てくることもあります。それらを解決するためのものとして、授業者の方で以下のものを用意しました。生徒は、これらを使って読み進めていきました。

- | | | |
|----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 知恵蔵 | ☐ 現代用語の基礎知識 | ☐ 学校の図書室蔵書 |
| ☐ イミダス | ☐ 広辞苑 | |

(5) 第一次意見文作成

資料を読み進めていった結果、わかったことをもとに、「第一次意見文」を書きました。意見文としてまとめる作業を通して、自分の主張がより明確になっていきました。

(6) バザールの準備

ここで確認したことは、以下の点です。リハーサルは、「読書紹介バザール」のときと同じように行いました。生徒にとっては、前回よりも厳しい条件での発表となっているため、リハーサルといえども真剣な姿が見られました。

- | |
|--|
| ☐ 調べてわかったことだけを相手に伝える。自分がわからないことは伝えない。 |
| ☐ 相手に伝えることを絞り込む。自分の扱っているテーマの中でも一つのことに絞る。
聞き手には何の予備知識もないという相手意識を明確にもつ。 |
| ☐ 相手のことを考えて、どういう方法で伝えるのがいいのかを考える。 |
| ☐ 「自分はこう考える」という自分の主張をしっかりとつ。 |
| ☐ 発表原稿は作らない。あればそれを見て読んでしまう。メモ程度ならいいが、それも慣れてきたら見ない。 |
| ☐ 新たに発表用の資料は作らない。 |
| ☐ 持っている資料や文献はそのまま提示し、説明を加えていく。 |